

いちよし日本好配当株&Jリートファンド 年4回決算型(愛称:明日葉(あしたば))

追加型投信/国内/資産複合

交付運用報告書

第30期(決算日2024年9月17日)

第31期(決算日2024年12月17日)

作成対象期間(2024年6月18日~2024年12月17日)

第31期末(2024年12月17日)	
基準価額	10,208円
純資産総額	35,190百万円
第30期~第31期	
騰落率	△ 1.9%
分配金(税込み)合計	100円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○当ファンドは、投資信託約款において、運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法により提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の方法により閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記のホームページより閲覧およびダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「いちよし日本好配当株&Jリートファンド 年4回決算型(愛称:明日葉(あしたば))」は、このたび2024年12月17日に第31期の決算を行いました。

当ファンドは、予想配当利回り(株式)および予想分配金利回り(Jリート)が市場平均と比較して高く、割安と判断される銘柄を実質的な投資対象とし、高水準のインカムゲインの獲得と、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行ってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

いちよしアセットマネジメント

東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号

<照会先>

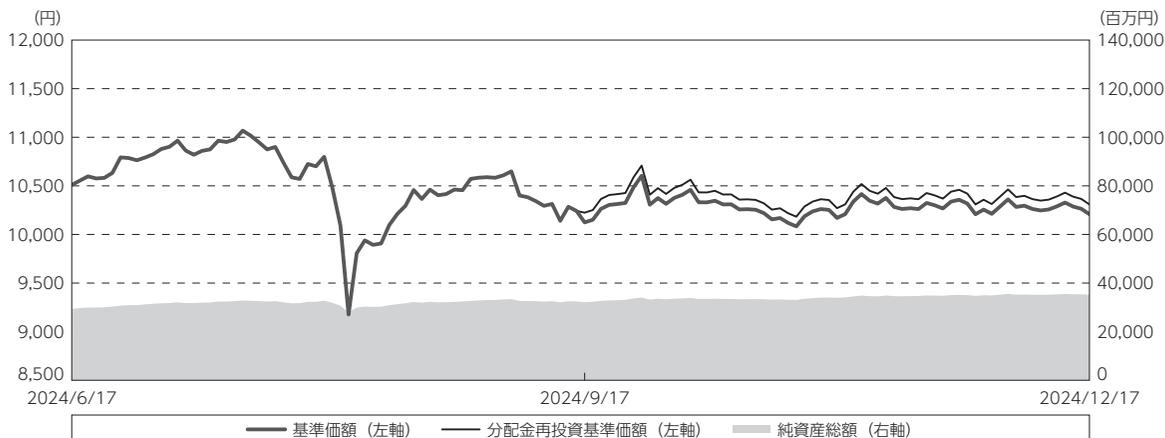
電話番号: 03-6670-6711

(委託会社の営業日の午前9時~午後5時まで)
ホームページ: <https://www.ichiyoshiam.jp/>

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2024年6月18日～2024年12月17日)



第30期首：10,509円

第31期末：10,208円 (既払分配金(税込み)：100円
分配金再投資基準価額 10,309円)

騰落率：△ 1.9% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2024年6月17日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
 (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の推移

当作成期の基準価額は、作成期首10,509円、作成期中高値11,068円(2024年7月17日)、作成期中安値9,176円(2024年8月5日)を経て、作成期末は10,208円となりました。

この結果、作成期中騰落率はマイナス1.9%となりました。

○基準価額の主な変動要因

(主な上昇要因)

- ・円安進行による輸出関連株などの業績改善期待
- ・米国の利下げと米国景気のソフトランディング期待
- ・米大統領選挙でのトランプ氏の当選と同氏による景気刺激策への期待

(主な下落要因)

- ・日米金融政策の方向性の違いを背景とした急激な円高の進行
- ・衆議院選挙での与党の議席数減による国内政治リスクの高まり
- ・トランプ氏の追加関税への言及による貿易戦争への警戒感の高まり

1万口当たりの費用明細

(2024年6月18日～2024年12月17日)

項 目	第30期～第31期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 72	% 0.684	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(35)	(0.331)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(35)	(0.331)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.022)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	9	0.090	(b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数
(株 式)	(6)	(0.056)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投 資 信 託 証 券)	(4)	(0.034)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.005	(c) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷)	(0)	(0.004)	法定開示資料の印刷に係る費用
(管 理 ・ 運 営 費 用)	(0)	(0.000)	法定書類の提出に係る費用
合 計	82	0.779	
作成期間の平均基準価額は、10,490円です。			

(注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

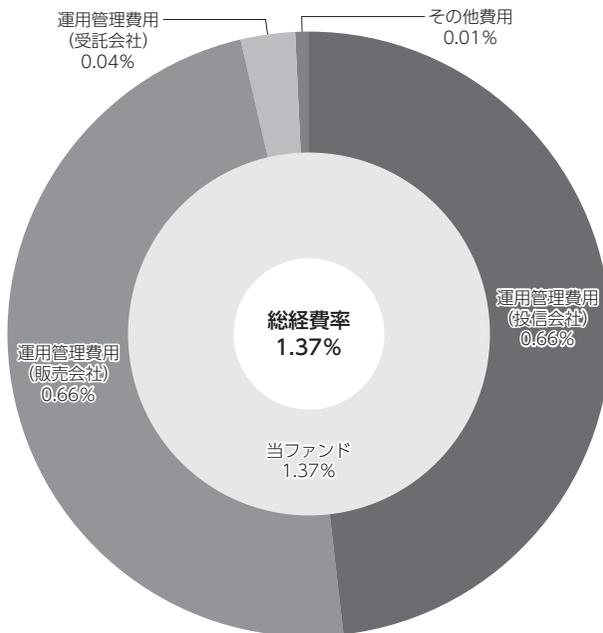
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.37%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2019年12月17日～2024年12月17日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2019年12月17日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2019年12月17日 決算日	2020年12月17日 決算日	2021年12月17日 決算日	2022年12月19日 決算日	2023年12月18日 決算日	2024年12月17日 決算日
基準価額 (円)	10,502	9,358	10,270	10,507	10,507	10,208
期間分配金合計(税込み) (円)	—	200	850	330	1,720	1,200
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 8.6	18.7	5.6	16.9	8.4
純資産総額 (百万円)	3,566	2,685	3,436	9,915	21,230	35,190

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2024年6月18日～2024年12月17日)

〔株式市場の動向〕

当作成期（2024年6月18日～2024年12月17日）は、作成期首から7月上旬にかけて161円台半ばまで円安が進行したことや、米国の生産や雇用などの経済指標が軟化したことで米国での利下げ期待が高まったことなどから国内株式市場は上昇しました。日経平均株価は7月11日に42,000円台を上回り史上最高値を更新しました。その後は7月末の日銀の利上げと米連邦準備制度理事会（FRB）議長による利下げの示唆など、日米の金融政策の方向性の違いを背景に、急激に円高が進行し、国内株式市場のボラティリティは高まりました。9月には米国で0.5%の利下げが決定され、米国景気のソフトランディング期待が高まるとともに、国内株式市場は落ち着きを取り戻しました。9月末の自民党総裁選では石破氏が当選し、10月末の衆議院選挙では与党が議席数を減少させましたが、政治情勢の不透明感が一旦は和らいだことで国内株式市場は上昇しました。11月の米大統領選挙では共和党のトランプ氏が当選し、今後の景気刺激策が期待され幅広い銘柄が上昇しました。11月末にはトランプ氏が中国やカナダ、メキシコへの追加関税を示唆したことで、国内株式市場の一部ではリスク回避の動きがあり、また、米長期金利の低下により円高が進行しました。期末にかけては、米連邦公開市場委員会（FOMC）と日銀金融政策決定会合を控え緩やかに円安へと転換する中、国内株式市場は横ばいで推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2024年6月18日～2024年12月17日)

〔運用経過〕**株式組入比率**

作成期末のポートフォリオは21業種、58銘柄で構成しています。作成期中を通して日本好配当株マザーファンドの予想配当利回りは3%台半ばを概ね維持しました。組入比率は高位を維持し、作成期末の組入比率は95.6%となっています。

業種・銘柄

組入銘柄の主な業種は、化学、建設業、輸送用機器となっています。個別銘柄では、第一生命ホールディングス（8750）、大和ハウス工業（1925）、オリックス（8591）などを上位に組入れています。

Jリート組入比率

作成期末のポートフォリオは41銘柄で構成しています。作成期中を通していちよしJリートマザーファンドの予想分配金利回りは4%台を概ね維持しました。組入比率は高位を維持し、作成期末の組入比率は97.9%となっています。

業種・銘柄

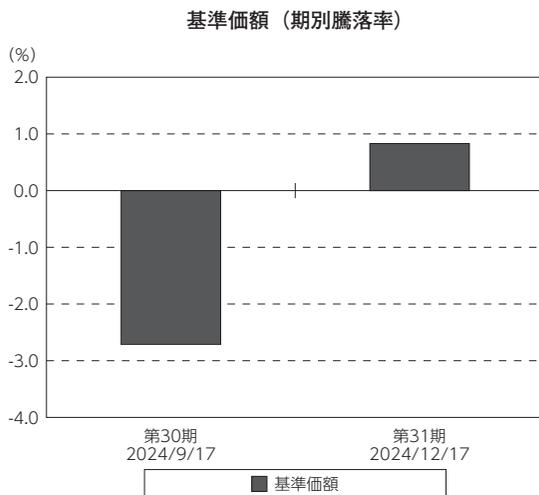
組入銘柄の主な業種は複合・総合型、特化型（オフィスビル）、特化型（物流施設）となっています。個別銘柄では、インヴィンシブル投資法人（8963）、ジャパン・ホテル・リート投資法人（8985）、大和ハウスリート投資法人（8984）などを上位に組入れています。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2024年6月18日～2024年12月17日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

右記のグラフは、作成中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金(税込み)込みです。

分配金

(2024年6月18日～2024年12月17日)

基準価額水準、市場動向等を勘案し、第30期は1万口当たり100円(税込み)、第31期の分配は見送りいたしました。なお、収益分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項 目	第30期	第31期
	2024年6月18日～ 2024年9月17日	2024年9月18日～ 2024年12月17日
当期分配金	100	—
(対基準価額比率)	0.978%	—%
当期の収益	35	—
当期の収益以外	64	—
翌期繰越分配対象額	1,117	1,210

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

〔投資環境見通し〕

トランプ次期大統領による減税や関税の引き上げ、移民政策などは、米国のインフレ率や景気動向を左右し、今後も予断を許さない状況が継続すると見込みます。また、日米の金融政策の方向性の違いなどにより、為替市場におけるボラティリティの高まりには引き続き注意が必要と考えます。米国では景気が良好であるが故に、2025年の利下げ回数の減少がコンセンサスとなっています。また、欧州や中国などでは景況感の回復に時間を要していることなどから2025年にかけても良好な米国経済のみに注目が集まる状況が継続すると見込んでいます。国内企業の2024年度の上期業績は円高の影響などにより一時的に弱含みましたが、企業のファンダメンタルズは良好と判断しています。企業業績は下期以降に回復し、2025年度も緩やかに拡大すると見ており、国内株式市場は今後も堅調に推移すると見込んでいます。

Jリート市場について、不動産市況を見ると三鬼商事のオフィスマーケットデータでは、東京ビジネス地区の2024年11月の平均空室率は4.16%と前月比で減少しており、なかでも既存ビルの空室率は3.92%と2020年10月以来の3%台へと低下しています。同地区の11月の平均賃料は20,243円と前年同月比で上昇しています。引き続き、ホテルは宿泊者数や客室売上がコロナ禍以前の水準を上回り、商業施設も回復基調が続いています。物流施設は需要が拡大する一方で、高水準の供給が継続しており一部で需給の緩和が見られます。賃貸住宅市場では首都圏を中心に需要が良好で、他の大都市圏でも需要が安定しており、物件の稼働率は全体的に高い水準を維持しています。

〔今後の運用方針〕

現状の投資判断として、株式約70%、Jリート約30%の組入配分としています。

国内株式市場では、企業の大小を問わずROEの改善に向けて、利益額の成長とともにバランスシートの改善、自己資本の抑制のための総還元性向上を昇させる動きが今後も広がっていくと想定しています。2025年はトランプ次期大統領の言動や、米国の景気見通しなどへの関心がなお一層高まると見込んでいます。国内景気は春闘での賃上げなどへの期待から、底堅く推移すると想定しています。

Jリートは日銀の利上げや不動産市況の高止まりに対する警戒感から弱含んでいますが、オフィス市況などファンダメンタルズの改善は継続しています。東証上場REIT分配金利回り(加重平均)はコロナ禍の2020年3月以来の5%台まで上昇しており、割安感は強いと見ています。

個別銘柄における利益成長、株主還元姿勢などの変化を受けた銘柄入替は随時行い、今後も高い配当利回りが見込まれる銘柄、Jリート銘柄への選別投資を継続し、信託財産の中長期的な成長を目指し積極的な運用を行ってまいります。

お知らせ

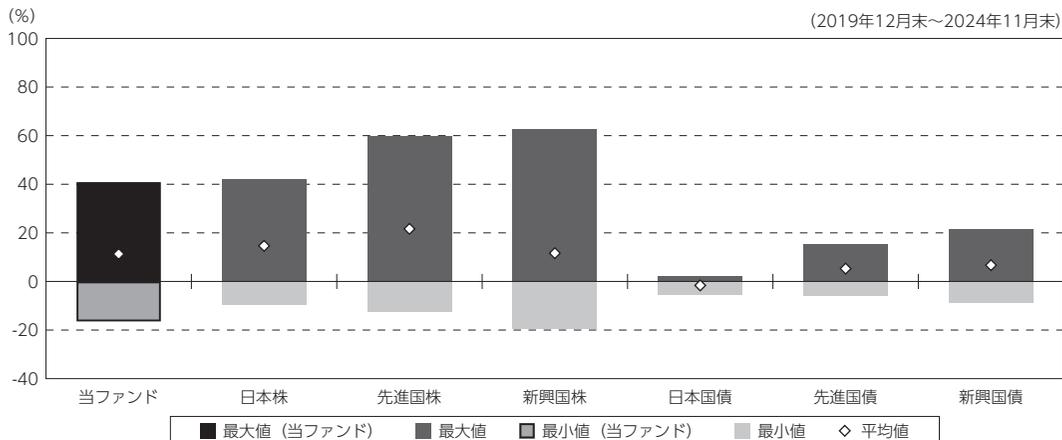
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／資産複合	
信託期間	2017年2月24日から原則無期限です。	
運用方針	「日本好配当株マザーファンド」および「いちよしJリートマザーファンド」受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場している株式および不動産投資信託証券に投資し、中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	いちよし日本好配当株& Jリートファンド 年4回決算型	「日本好配当株マザーファンド」および「いちよしJリートマザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	日本好配当株マザーファンド	わが国の金融商品取引所（これに準ずるものを含みます。）に上場されている株式（上場予定を含みます。）を主要投資対象とします。
	いちよしJリートマザーファンド	わが国の金融商品取引所（これに準ずるものを含みます。）に上場されているREITを主要投資対象とします。
運用方法	<p>①予想配当利回りが市場平均と比較して高く、割安と判断される銘柄を中心に投資を行い、高水準のインカムゲインの獲得を目指してポートフォリオを構築します。</p> <p>②株式への投資にあたっては、「株式会社いちよし経済研究所」のリサーチ力を活用します。J-REITへの投資にあたっては、野村不動産投資顧問株式会社が算出した各J-REITの割安・割高等の結果を踏まえた助言をもとに、ポートフォリオを構築します。</p> <p>③株式およびJ-REITの組入比率は、原則として高位を維持します。</p>	
分配方針	<p>毎年3月、6月、9月、12月の各17日（休日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として以下の方針に基づき収益分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分配対象額の範囲は、経費等控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・毎年3月および9月の決算時の収益分配金額は、上記の範囲内で委託会社が決定するものとし、原則として利子・配当等収益を中心に分配を行うことを基本とします。また、6月および12月の決算時には、利子・配当等収益を中心とした分配は行いませんが、上記の範囲内で基準価額等を勘案し、委託会社が収益分配金額を決定します。 ・留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	40.9	42.1	59.8	62.7	2.3	15.3	21.5
最小値	△ 16.5	△ 9.5	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	11.3	14.6	21.6	11.6	△ 1.6	5.3	6.7

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2019年12月から2024年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2024年12月17日現在)

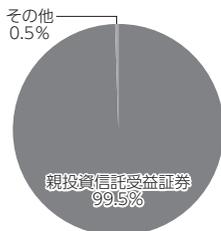
○組入上位ファンド

銘柄名	第31期末
日本好配当株マザーファンド	66.4%
いちよしJリートマザーファンド	33.1%
組入銘柄数	2銘柄

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

○資産別配分

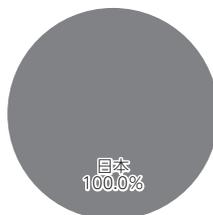


(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

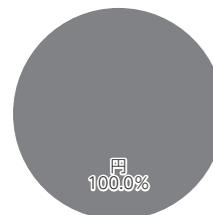
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

○国別配分



○通貨別配分



純資産等

項目	第30期末	第31期末
	2024年9月17日	2024年12月17日
純資産総額	32,121,653,068円	35,190,234,122円
受益権総口数	31,728,005,489口	34,474,260,451口
1万口当たり基準価額	10,124円	10,208円

(注) 当作成期間(第30期~第31期)中における追加設定元本額は7,192,570,175円、同解約元本額は656,891,525円です。

組入上位ファンドの概要

日本好配当株マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2023年9月27日~2024年9月26日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株 式)	44 (44)	0.175 (0.175)
(b) その他費用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	44	0.175

期中の平均基準価額は、25,149円です。

(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

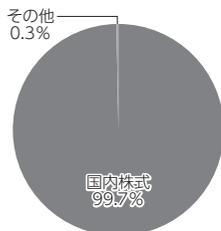
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 大和ハウス工業	建設業	円	日本	3.5%
2 第一生命ホールディングス	保険業	円	日本	3.0%
3 三井化学	化学	円	日本	2.9%
4 クラレ	化学	円	日本	2.9%
5 日本電信電話	情報・通信業	円	日本	2.8%
6 オリックス	その他金融業	円	日本	2.8%
7 ヒューリック	不動産業	円	日本	2.5%
8 KDDI	情報・通信業	円	日本	2.4%
9 本田技研工業	輸送用機器	円	日本	2.3%
10 電通グループ	サービス業	円	日本	2.3%
組入銘柄数		63銘柄		

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

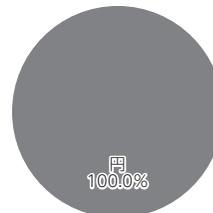
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

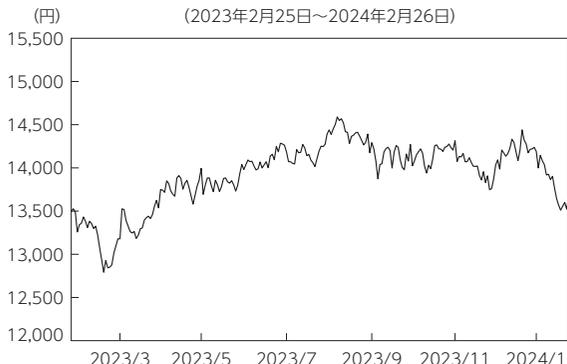
(注) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは2024年9月26日現在のものです。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

いちよしJリートマザーファンド

【基準価額の推移】

(2023年2月25日～2024年2月26日)



【1万口当たりの費用明細】

(2023年2月25日～2024年2月26日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	55 (55)	0.392 (0.392)
(b) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合計	55	0.392

期中の平均基準価額は、13,999円です。

(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

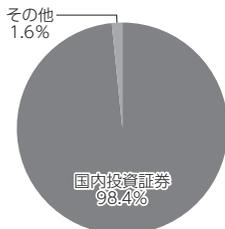
銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1 イオンリート投資法人	投資証券	円	日本	5.8%
2 大和ハウスリート投資法人	投資証券	円	日本	5.8%
3 インヴィンシブル投資法人	投資証券	円	日本	5.6%
4 野村不動産マスターファンド投資法人	投資証券	円	日本	5.0%
5 ジャパンエクセレント投資法人	投資証券	円	日本	4.8%
6 KDX不動産投資法人	投資証券	円	日本	4.5%
7 日本ビルファンド投資法人	投資証券	円	日本	3.7%
8 ユナイテッド・アーバン投資法人	投資証券	円	日本	3.7%
9 日本プロロジスリート投資法人	投資証券	円	日本	3.6%
10 福岡リート投資法人	投資証券	円	日本	3.6%
組入銘柄数		43銘柄		

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

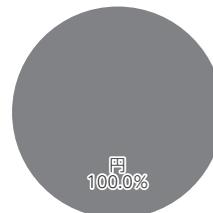
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは2024年2月26日現在のものです。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークとして算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。